令和8年度 2学年 授業改善推進プラン（課題分析と授業改善策）　　学校番号 306 開進第二中学校

	課題分析	授業改善策	改善状況
国語	○ 基礎的な知識事項の習得 語彙力はあり、作文や短歌を書くときにその能力を発揮している。一方で、原稿用紙の使い方が分からなかったり、季語などの知識が十分に身に付いていなかったりするなど、自分の考えを形成することに課題が見られた。 ○文章や表現をもとに自分はどう考えたのかを構成・表現すること、互いの文章を読み合って根拠を示し推敲することに課題がある。	○ 知識・技能の習得に向けた指導を丁寧に行う。原稿用紙の使い方をはじめ、句読点や文末表現など記述問題の解答方法を丁寧に指導する。また、身に付いていないと感じた知識技能に関しては放置せずに、何度も振り返って指導を行う。 ○ 読みの三様態を意識した授業展開をし、文章を読んで自分がどう感じたのかを考える学習時間を確保する。また、生徒同士で記述や作文を読み合い、本文や理由などの根拠を示しながら推敲・アドバイスし合う活動を取り入れる。	
社会	○基礎的基本的な知識の定着度に差が見られる。板書を写すことなど、「書く」ことに課題のある生徒がいる。 ○個人で思考したことを、資料やグラフ等の根拠をもとに対話的な学習を通して深めていくことに課題がある。	○授業の最初に、前時の復習を、プレゼンテーション資料等を活用して行う。問題集を活用し、定期的に単元テストを行い、基礎・基本の定着を図る。書く事に関しては、重要語句を中心に書くことができるように声かけをする。 ○「主体的・対話的で深い学び」を目指し、タブレット端末を活用して歴史・地理の資料や統計データを検索・整理させ、根拠を明確にして自分の考えを小グループで議論・発表する学習活動を充実させる。	
数学	○授業では理解できていても、定着していないため、定期考査での点数に反映されない。 ○既習事項を活用した発展問題や、図・式・表・グラフ等を根拠にして論理的に説明・表現する問題に苦手意識がある。	○習熟に合わせた課題の反復練習を適切に取り入れ、計算力等の定着を図る。 ○小テストや単元テストを取り入れ、課題や単元ごとに習得の確認を行う。 ○「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、「なぜそう考えたのか」を問う発問を増やし、図・式・表・グラフなどの根拠を用いて考えや理由を説明し合う活動を設定する。タブレット端末等を用いて多様な解法を比較・参照する工夫を取り入れる。他者と学び合いながら思考を広げ、好奇心をもって課題に取り組めるようにする。	
理科	○知識の定着に個人差がある。 ○実験結果（データ・表・グラフ）や既習知識を根拠にして、文章で考察・説明すること（思考力・表現力）に課題がある。	○毎時間、前時の振り返りをクラス全体で行い、知識の定着を図る。小テストを定期的に行う。 ○毎時間、実験・観察のデータや根拠を提示させた上で「分かったこと・考察」を具体的に記入させ、思考力・表現力を高める。タブレット端末を用いた結果の共有や、次の学習へつなげる振り返り時間を確保する。	

音楽	○学習に取り組もうと努力しているが、主体的に取り組む態度に差が見られる。 ○音楽の構造についての知識や音楽の要素を知覚・感受する力に差がみられる。	○全ての生徒が、分かったことや考えたことを表現する機会を設ける。 ○表現の工夫や楽曲のよさについて例を示し、根拠（楽曲の構造や要素など）をもって自分の意見を発表・交換したり、ワークシートに記録して共有したりする	
美術	○技能や理解度に差があり、制作の進度や作品の完成度に差がある。 ○基礎的な技法を応用して作品制作に活かすことに課題がある。	○題材や教材を見直し、制作時間を十分に確保する。進みが遅い生徒に対しては、最低限の目標を明確に設定し基礎を完成させる。 ○基礎的な技法とともに応用例を提示する。制作前に参考作品を見ながら制作の構想を練る時間を十分にとる。相互鑑賞において「どこを工夫したか」の根拠を言葉で伝え合い、次回の改善につなげる場面を設定する。	
保健体育	○運動習慣や知識・技能に差が見られ、協調性（仲間を受け入れる姿勢）や自己表現力に課題がある。	○グループ活動を多く取り入れ、様々な仲間と関わり、互いの考えや動きを受け入れられるよう、グループ活動を設定する。今年度は調べたこと感じたことを表現できるような授業内容に展開する。 ○学習カードを利用して、課題解決に向けた話し合いや、調べたこと・感じたことをタブレット端末や表現運動等でアウトプットする場面を設定する。	
技術家庭	○専門用語の理解や事前準備を含めた技能の向上が必要である。	○専門用語の丁寧な説明と繰り返し学習、実演を踏まえた作業説明を行う。 ○作業工程の振り返りを毎時間行わせ、できた点・工夫すべき点を整理して次の学習につなげさせる。	
外国語（英語）	○基礎的語彙・文法の定着不足：三人称単数現在形・過去形などの時制の一致、単複の区別、スペルミスといった基礎的な正確性に課題がある。 ○文脈に応じた自己表現の難しさ：自身の考えや主張を述べる際に、根拠や理由（because … 等）を伴わせた論理的な文構成を組むことが難しく、直訳に頼って英文が破綻したり途中で作業が止まったりする傾向がある。	○語彙・文法の定着（知識・技能） 毎時間、単語リストで「発音・意味・綴り」を一体化させ、三人称単数や時制などの基礎を定着させる。 ○即興通訳ペアワーク（思考・判断・表現） 日英・英日の即興通訳や応答を行い、音声の強みを活かして語彙・文型を即座に引き出す力を養う。 ○段階的な記述支援（スキャフォールディング） I think that ～ because … などの型（チャンク）を提示し、意見と理由を論理的に書くステップを踏ませる。	